

## 普通話、方言、近世語

植田 均  
UEDA, Hitoshi

### [提要]

方言を学ぶことは歴史言語を学ぶことにつながる。ここに近世語を解く鍵がある。一方、共通語は現在も方言を取り込みつつあり、共通語と方言は密接な関係がある。

1. なぜ、方言を学ぶことが必要か
  - 1.1. 中国の主要方言とは
    - 1.1.1. 主要方言における語彙の差
    - 1.1.2. 中国語におけるアクセントの特徴
  - 1.2. 北京語は共通語 (= 標準語) か
    - 1.2.1. 北京語の特徴
    - 1.2.2. 普通話の3つの条件
    - 1.2.3. 拼音字母の制定
    - 1.2.4. 日本の漢字及び語音
  - 1.3. 「共通語」はいつから存在したか
  - 1.4. 現代中国の方言政策
  - 1.5. 中国語の姿勢
2. 中国語に対する取り組み方
  - 2.1. なぜ、近世中国語を研究するのか
  - 2.2. なぜ、宋代からなのか
  - 2.3. なぜ、『水滸傳』、『醒世姻縁傳』なのか

## 1. なぜ、方言を学ぶことが必要か

なぜ方言を学ぶことが必要か。

1つは、宋代以来の旧白話（当時の口頭語）がそのまま現代方言に残存していることにより、方言学習・研究は欠かすことができない。もう1つは、現地では方言が我々の肌で実際に感じるという点である。先ず、耳に入ってくるのは普通話もさることながら、方言なのである。

### 【方言（＝現地の口語）が優勢】

中国の玄関口の1つ、上海は上海方言の世界である。上海で電話局に普通話で電話番号を尋ねても、相手の係員は一般に上海語で応答する。即ち、上海では普通話よりも上海語の方が余程優勢である。どのような話題であっても、地元の人同士は必ず上海語で行う。眼前にいる外国人の筆者に話を向けるときだけ共通語となる。生活言語、つまり地元の話し言葉は全て方言である。しかも、中国全土、各方言で大きく異なる。

例えば、普通話と呉語の差は以下の通りである。<sup>1)</sup>

普通話	上海（呉語区域）
日本人 [Riběnrén]	日本人 [zə <sup>2</sup> pəŋ <sup>34</sup> ŋiŋ <sup>13</sup> ]
谁? [shéi (又) shuí]	啥人 [sa <sup>34</sup> ŋiŋ <sup>13</sup> ]
我们 [wǒmen]	阿拉 [a <sup>2</sup> la <sup>53</sup> ]

普通話と上海語（呉語の1つ）間では、発音のみならず、表記も大きく異なる場合がある。では、中国の主要な方言はどのようなものがあるのか。

### 1.1. 中国の主要方言とは

中国の主要方言はどのようなものがあるか？「中国の方言人口」の一覧表を示す。

《方言人口表》

【表1】

中国語の方言人口（重複している）		主要都市
北方語系		北京
呉語系	約8,000万人	上海、蘇州（江蘇省）、温州（浙江省）
粵語系	約2億1,000万人	広州（広東省）、香港
閩語系	約1億5,000万人	廈門、福州（福建省）、台湾
客家語系	約6,000万人	梅県（広東省）他に、広西壮族自治区、福建省に点在。
湘語系	約6,000万人	長沙（湖南省）
贛語系	約4,000万人	南昌（江西省）
海外系	約6,000万人	シンガポール、マレーシア等。各国の中華街。

### 【湘語と贛語とは北方官話に近い】

呉語：面積が日本の群馬県に匹敵する上海市。加えて、蘇州。これらが呉語北区の江蘇省。一方、呉語南区に属する寧波、杭州、温州の浙江省。清代『海上花列傳』、『九尾亀』の如き、セリフの部分各々、蘇州語、上海語で書かれた白話小説は恰好の呉語研究資料にもなる。

粵語：1997年7月「香港返還」で沸いた香港及び広東省ほぼ全域。そして、広西壮族自治区の約半

分を占める。

閩語：福建省。広東省の一部、そして台湾に分布する。

客家語：広東省、広西壮族自治区、福建省等に点在。“客家”というコトバ自体が「客人」の意味で、もともと一定の場所に定まらず移動することを指す。

海外系：華僑全人口約6000万人の共通語は一般に広東語である。

1.1.1.主要方言における語彙の差

方言は、単に漢字が同じで発音のみ異なる語と思われがちである。例えば、“学生” [xuésheng] は、どの土地へ行っても“学生”と表記する。“学生”の場合は漢字表記が同一であったが、一般に漢字、発音の両方とも異なることが多い。

【異なるのは発音だけではない！】

漢字も発音も両方異なる語が相当存在する。例えば、主要な語彙を普通話と方言とに分けて一覧にすると [表2]、[表3] となる。

【表2】

普通話		方言	
自転車	自行车 [zìxíngchē]	蘇州話	脚踏车 [tɕiɔpʔɿ daʔɿ ts'ɔŋk]
		広州話	单车 [tanŋ tʃ'ɛŋ]

[主要方言における〈漢字表記〉語彙の差の一覧表]

【表3】

	都市	語彙				
共通話		谁	我們	学生	自行车	膝蓋 [xīgài]
北方語	北京	谁	我們	学生	自行车	波楞蓋儿 [bōlenggàir] [pɔɿ ləpɿ kairŋ]
吳語	蘇州	啥人	阿拉	学生	脚踏车	脚饅頭 [tɕiɔpʔɿ mɔŋtɿ dʏŋk]
粵語	広州	邊個	我地	学生	单车	膝頭 [哥] [ʃetɿ t'euɿ [kɔŋŋ]
閩語	廈門	①誰。②啥人	阮	学生	脚踏车	脚頭汚 [k'aŋtɿ t'euɿtɿ uɿ]
日本語	大阪	誰	我々	学生	自転車	膝頭 [ヒザガシラ]

日本語はウラル・アルタイ語族に属し、中国語はシナ・チベット語族に属す。したがって、言語の系統が全く異なる。ただ、1000年～1500年前に語彙（漢字）を借用（輸入）し、既に長い年月を経て日本語の中に溶けこんでいるだけにすぎない。1972年国交回復以来よく耳にするようになった「ネットに歓迎します」の「熱烈」は、本来の日本語の用法には無いと思われる（一般に「心より歓迎します」を用いる）。

1.1.2.中国語におけるアクセントの特徴

「高さのアクセント」という声調も各方言によって大きく異なる。例えば、北京語は4声、上海語及び客家語は6～7声。広東語は9声、福建語は8声である。濁音は北京語に無いが、南方諸方言に存在する。日本語にも濁音は存在する。<sup>2)</sup>

このように、中国語の各方言間の差異は相当開きがあり、さながら外国語の如きである。

中国語における「アクセント (=声調)」の方言の特徴 【表4】

	代表都市	声調	濁音	そり舌音	入声 (音便)
共通話		4声	-	○	-
北方話	北京	4	-	○	-
呉語	上海	6~7	○	-	○
客家話	梅県	6~7	○	-	○
粵語	広州	9	○	-	○
閩語	廈門	8	○	-	○
日本語	大阪	-	○	-	○

## 【詰まる音=音便】

“学生”を普通話で [xuésheng]、蘇州話で [fiəʔɿsəŋɿ]、広州話で [həkɿʃəŋɿ]、廈門話で [hakɿʃɿŋɿ] という。これら普通話以外の方言はいずれも入声を保留している。現代広州話の“学生”は中世当時の中国語の発音によく類似する。

遣隋使、遣唐使等により大量の中国語を輸入した折り、当然、当時の発音そのままを輸入 (=借用) した。この時、入声、即ち、「詰まる音」まで輸入するのは自然である。これを日本語では「音便」と言い、“学生”の発音を筆記した結果、「ック」を入れた。詰まる音「ッ」の促音便は「-p」、「-t」、「-k」で終わる音で、現代普通話では既に消滅してしまい、ただ、南方諸方言に残存しているにすぎない。<sup>3)</sup>

日本語から見た中国語の借用関係は、「日本語は (中国語の) 濁音と入声を借用し、声調及びそり舌音は借用しなかった」のである。

## 【核心部分は方言で行う】

方言を知っておくと非常に便利である上に、知らないと不利益を被ることがある。例えば、北京人と広東人と上海人の3地方出身の人が会議を行うと、北京人が最も不利益となる。この理由は他の2地方出身者は普通話以外に自らの方言を操ることができるが、北京人は普通話以外は (北京語しか) 理解できないからである。我々外国人はさながら北京人と同じ状態に置かれている。肝心な箇所、核心部分を彼ら自身の方言で行われると全く理解できず、閉口する。

上海語や閩語、広東語、客家語など、長江以南は方言差が特に大きいことを述べた。それでは、北方 (長江以北) へ行けば共通語の音に近くなるから完全に聴解できるかといえば、必ずしもそうではない。北方方言の中においても歴然とした差が存在する。ただ、それは主に発音面であって、漢字表記の差は一般に小さくなる。(方言文字の例：“俐”〈=舌头〉、“冇”〈=無〉以上、広東語。“晏”〈=“只要”〉、“屌”〈=“勿要”〉以上、上海語)。

## 【漢民族の言語】

このように、各方言間の差違 (特に音声面) が大きいと、どうしても意思疎通を図るための共通語が必要になってくる。

中国は漢民族が全人口12~13億人の95%以上を占めるので、漢民族の言語を指して“汉语”という。しかし、漢語の中にも各方言間の差が大きく、更に、少数民族も約55種類いて、独自の文字と発音を有する。ただ、これでは言語の疎通がうまくゆかないので“普通話”が必要となる。

では、北京語は中国の共通語だろうか。

## 1.2. 北京語は共通語（標準語）か

歴史的に見て北京は元代以来、約700年間都が置かれた所で、北京語の勢力は大きいですが、普通話（＝共通語）ではない。

### 1.2.1. 北京語の特徴

#### 【軽声と儿化語】

北京語の特徴の1つは軽声が極めて多い。第2音節（または第3音節）を軽く発音するのである。例えば、“今天”は普通話で陰平と陽平であるが、北京語（を中心とした北方方言）では陰平と軽声に発音する。又、儿化語が多い。これは語尾に英語のRの如き発音を加えるのである。普通話“今天”を儿化語“今天”或いは“今几个”（“个”は軽声）という。また、普通話の“不知道”は北京語で“不儿道”と発音する。このように、軽声、儿化語が非常に多い。

### 1.2.2. 普通話の「3つの方針」

我々が学ぶのは「共通語」、即ち、“普通話”（または“汉语”）と称する。北京語という呼称は北方方言の1つにすぎず、共通語（普通話）ではない。現在でも台湾では共通語の呼称を“國語”、シンガポール（星加坡）や欧米では“華語”という。

“普通話”とは何か。1954年に中国文字改革委員会が発足し、1955年「第1次異体字整理表」、「漢字簡化方案草案」を発表する。このとき漢語規範化会議で3つの方針が打ち出された。これを“普通話”＝共通語という。その「3つの方針」とは、次の①～③である。

- ①北京語音を標準音とする。
- ②北方方言を基礎語彙とする。
- ③現代の優れた白話著作を文法の規範とする。

これを基本にしているので、普通話とは、厳密には北方方言の色彩が大きく占める。

### 1.2.3. 拼音字母の制定

#### 【ピンイン字母（中国語式ローマ字）とは発音記号か？】

1958年、ピンイン字母（中国語式ローマ字）の制定。これが“普通話”の普及推進に大いに役立つ。これは、このローマ字に沿って発音するのであるが、発音記号ではない。ピンイン字母も立派な中国語である。日本語でいえば、さながら片仮名のようなもので、漢字の如き表意文字ではなく、印欧語の如き表音文字である。現在では、中国の小学校からこれを用いて“普通話”教育を推進している。<sup>4)</sup>

### 1.2.4. 日本の漢字及び語音

#### 【日本語は外国語（古代、中世中国語）か】

学生が『『服を着る』を“着衣服”[zhuó yīfu]としてなぜダメなのか?』と尋ねて来たことがあった。これは日本語からの発想。現代中国語では“穿衣服”としなければならない。

なぜ、このようになるのか。日本が中国から漢字を借用した背景があり、中国のどの時代に借用(=輸入)したかを確認する必要がある。

次に簡略した中国の歴史年表を掲げ、日本がどの時代に最も大きな影響を受けたのかを検証する。

【表5】

年代	BC.21C	BC.16C	11C	770	221	202	25	220
王朝	仰韶／龍山文化・夏・殷・周			春秋戦国・秦	漢	後漢	三国(魏・呉・蜀)	
都	(?) (商)			咸陽・長安・洛陽				

年代	420	581	618	960	1125		1279	1368	1644
王朝	南北朝	隋	唐	北宋	金	南宋	元	明	清
都	洛陽	長安	汴京	会寧 (哈爾濱)	→燕京	臨安	大都	金陵	→北京

古代日本が遣隋使、遣唐使として正式に漢字を受け入れた7世紀初頭、中国は既に中世で、当時としては世界一の文化を有していた。“着衣服”はこの頃の用法。明代の白話資料である『水滸傳』、『二刻拍案驚奇』、『三遂平妖傳』、明末清初の『醒世姻縁傳』にこの用法が存在する。しかし、現代普通話では使用しない。ただ、現代方言の呉語区域、粵語等に残存している。<sup>5)</sup>

### 【日本語の音読は古い中国語音】

長江以下の方言音が日本語の中の漢字音の「音読み」に発音が近い。なぜか？中原の中国語が時代と共に変化、発展して行ったのに対し、昔のままの音が沿岸地域の呉、粵、閩などの各方言に残存した。中心から離れた場所に古い語が残存する。これが「遠心性の法則」である。

日本には5～6世紀あたりから、そして、7～8世紀の遣隋使、遣唐使を経て様々な漢語(当時の中国語。口語、文語ともに)が大量流入した。日本における漢語はその後、(他の各方言に残存した場合と同様)何ら変化、発展せず、「文法」ではなく、「語彙」のみが)当時のまま根付き、同化した。この結果、我々の文化活動、日常生活では既に外国語であるとは思わない程、違和感が全くなくなっている。

### 【日本語の発音が無い日本語の中の漢語：「菊」と「蘭】

例えば“菊”の現代普通話音 [jú] は昔「キ(ッ)ク」と発音。詰まる音であった。菊は天皇家の紋章として日本固有のものだと考えがちであるが、誤謬である。今日でも和語としての日本語の発音(所謂、訓読み)は無い。

和語としての日本語の発音が無い漢語は“蘭”の花も同様である。「ラン」の発音も実は中国語であり、現代中国語でもよく似た音 [lán] である。この結果、少々飛躍して言えば、系統が全く異質の日本語も系統関係が同質の広東語や上海語と同様、(語彙のみ見ていれば)「中国語の日本(地域の)方言」とも見なせる。

日本で用いる漢語(和語に対しての)は凡そ全て中国語からの借用関係で、昔の中世中国語である。遣隋使、遣唐使、あるいはその後も貿易活動を通じて、または、留学僧が持ち帰る、等により(漢語)語彙が増加して行った。

このように、沿岸地域の呉、粵、閩などの方言には通時的な面を強く残している。即ち、昔の口語

語彙が現代普通話では既に消え失せていても、ある方言区域には依然として残存している（即ち、口頭語で使用している）ケースがある。例えば、「顔」を表す“脸”は昔、“面”を使用。日本語に存在する漢語も「面」であり、“脸”は無い。これを方言という角度からの地理的分析では、南方諸方言は全て“面”である（ただし、呉語北区の蘇州話は“面孔”）。

各方言で語彙が異なるのでは、国家統一にも影響が出る。では、「共通語」はいつから存在していたか。

### 1.3. 「共通語」はいつから存在していたか

#### 【唐の長安、宋の汴京（＝開封）、元、明、清の北京】

実は、「共通語」はかなり古い時代から存在していた。そうでなければ、中国統一すら難しいはずだからである。唐、宋、五代、北宋には「中原の共通語」といわれる広域に渡って使用されていた方言（＝通語）が存在した。そして、これは、元、明、清と都を北京に定めたことにより、明末清初頃から「官話」と呼ばれるようになる（O.E.D.には1589年に官話成立とある）。

#### 【Mandarinとは何か】

官話とは“普通話”（＝共通語）の旧称で、西洋人はこれをMandarinと呼んだ。もとポルトガル語で「官吏」の意味を指した。即ち、宣教師が中国大陸へやって来て、中国語のことをMandarinと呼んだと考えられる。

### 1.4. 現代中国語の方言政策

#### 【方言が普通話になる＝宥和政策】

中国は方言に対して宥和政策を採っているので、共通語（＝“普通話”）にいくらかでも取り入れる。即ち、ある方言語彙が、使用される地域が広域になれば方言でなくなり、“普通話”になるのである（この点が日本の言語政策と根本的に異なる）。この結果、現在は、1979年末以来の改革開放政策と相まって、外国文化、即ち、外国語がそのまま外国資本と共に中国に入ってくる。そのさい、中国の玄関口である広州や上海の口語、つまり、方言（訳語も含めて）が大陸を席卷する。諸外国の経済資本導入により、南方方言が在来の“普通話”を脅かすようになる。その一斑を次に挙げる。

#### 【90年代の新しい語】

##### ① [看板の語]

社会の変化を如実に表しているのが街中の看板である。

新しい語が、どのようにして、如何なるルートで大陸に流入し、定着したのかは街中の看板によりある程度分かる。この役割に大きく関わっているのは大企業がメディアを使っているケースもあるだろう。しかし、忘れてはならないのが1980年代初期から1990年代初期にかけて夥しい数にのぼった日本への中国人留学生である。彼らは何年間か日本に留学し、再び中国へ戻り、新しく商売を始めた。その時、日本語または外来語としての日本語を中国大陸へ持ち込んだのである。したがって、元はフランス、フィンランド、アメリカ等が語源であっても、実際に中国へ流入したのは悉く日本語（の中

の外来語) を経由しているのである。これに該当する語を挙げる。

【表6】

カラOK (カラオケ) 〈日本〉
ディスコ舞厅 [discotheque] (ディスコ) 〈フランス〉
快餐 [fast food] (ファーストフード) 〈アメリカ〉
汉堡包 [hamburger] (ハンバーガー) 〈アメリカ〉
桑拿浴 [sauna] (サウナ) 〈フィンランド〉
超市 (超級市場) [supermarket] 〈アメリカ〉
方便面 [instantラーメン] (インスタントラーメン) 〈日本〉

## ② [在来の大陸中国語を脅かす南方方言系の語]

これは、台湾、香港から入った語が元来存在した中国語を脅かすようになった語である。次に、それらを示す。“的士” [dìshì] はもともと広東語。“電腦” [diànnǎo] は台湾から流入。“△△酒店”は香港から来た言葉である。いずれも括弧の中は中国大陆での元来の語彙。

【表7】

的士 (“出租汽车” : タクシー)
电脑 (“计算机” : コンピューター)
△△酒店 (“△△饭店” : △△ホテル)

## ③ [科学技術用語]

外国資本導入による先端科学技術の用語、コンピューター、家電機器製品の用語の普及率が高い。

【表8】

硬件 (ハードウェア)、软件 (ソフトウェア)、录像 (ビデオ)、机器人 (ロボット)、 电视剧 (テレビドラマ)、家電 (家電製品)、彩电 (カラーテレビ) など。
--

## ④ [復活語]

文化大革命が勃発した1966年から収束した1976年まで、とりわけ我々が1970年代前半に学習した中国語は政治イデオロギーの色彩が濃厚であった。例えば、相手を呼称する語は“同志”で、これ以外に無かった。「(共産主義という) 志を同じくする」のである。

即ち、“太太”、“小姐”、“先生”等は資産階級の語彙で、「死語」だと教育された。日本における中国語学習にも中国の政治イデオロギーが強く影響を及ぼした。これらの「死語」が、(鄧小平氏主導のもと) 改革開放政策により、現在復活している。特に、南方から北方へ向けて復活している。

【表9】

小姐 (お嬢さん)、女士 (女性に対しての呼称)、 先生 (男性に対しての呼称)、太太 (奥様) など。
---

なぜ、①、②の如き外来語 (及び外国語の音訳、意識語) が方言語彙かといえば、中国の玄関が上海や広州だからである。古くからこれらの地域は外国との接点が多く、外国文化を受け入れ易い。例えば「TAXI」の音訳語“的士”。即ち、先ずこの地の方言 (口頭語) に音訳、意識し、その後、大陸全土に浸透してゆくのである。これに対し、北京 (及び北方) は相対的に中国古来の伝統文化を重んじ、外来語を含む外国文化を拒否しがちである。



【消失途上の語】

復活する語があれば、消失する語が存在して当然である。消失と雖も「口頭語」からの消失であって、一般に書き言葉としては存続している。例えば、“人民公社”、“同志”など。

現在、口頭語（話し言葉）で“同志”を用いると「時代遅れの言葉」として、一般の現代中国人に失笑を買う。<sup>6)</sup>

1.5. 中国語の姿勢

中国語の外国語を受け入れる時、1つの法則がある。中国語における「外国語の『受け入れの法則』」とは、一旦、彼の国の言語に加工される。これは中国語が表意言語だからである。表意言語は、外国語の発音をそのまま漢字であてはめるだけでは不十分なのである。「音訳部分+意識部分」の如く、必ず意識部分が加えられる。

一方、インド・ヨーロッパ言語等のように、表音言語はそのまま（発音のまま）受け入れる傾向のものがある。この点に、中国語との大きな差がある。【表10】に例を挙げた。

外来語の翻訳語

【表10】

意識語のみ：	チュウインガム（口香糖）
意識語との共存：	インターネット（因特网／国际联网）、 ビタミン（维他命／维生素）、Eメール（伊妹儿／电子邮件）、 ミニ・スカート（迷你裙／超短裙）
純然たる音訳語：	ビール（啤酒）、コーラ（可乐）、コココーラ（可口可乐）、 チョコレート（巧克力糖）、ボーリング・ゲーム（保齡球） →どれも、「音訳+意識」の形をとる。

「音訳語と意識語の共存」とは、音訳を入れた翻訳語（例えば“因特网”）と並行して意識ばかりの翻訳語（“国际联网”）が存在することである。

【表10】の下段に「純然たる音訳語」の例を掲げたが、例えば「コーラ」は英語の発音をそのまま漢字に置き換えている。しかし、音訳語“可乐”は同時に「意識語」でもある。「楽しむ可し」と意味を表現している。「ビール」の“啤”だけではイメージできないので“酒”を添加する。これによって、「純然たる」音訳語といっても、同時に意識部分を多くの場合含んでいことを示している。

意識部分が入らないと中国人はイメージできにくいようである。<sup>7)</sup> これは、同音字が極めて多く存在する中国語自身の特徴の1つに起因する。

例えば、[hu] の発音は以下に示す通り、多くの漢字表記が行われ、音のみであると意味が不明になる。即ち、どの漢字に該当するのか分からない。

[hú] 胡、糊、湖、狐、壺、葫、餬、蝴、…。

これらは陽平であるが、その他の声調に幅を広げれば、更に次の漢字表記も該当する。

[hu] 忽、呼、乎、戸、互、滬、滸、護、…。

2. 中国語に対する取り組み方

話し言葉の歴史研究、所謂「中国語史研究」とは、近世中国語、即ち、宋代あたりから現代までの口頭語の変遷史である。例えば、「顔」を表す“面”は古代中国語及び近世中国語で盛んに行われてい

た。しかし、現代中国語では“臉”が普通である。では、一体どの時期から“臉”が“面”に取って代わったのか。また、現在でも“面”を日常生活の常用語として口頭語で用いている方言区域が存在するのか否か。存在するのであれば、どの区域か等を考察する。

今、“臉”と“面”の現代方言における地理的分布を見ると次の如き【表11】になる。

【“臉”と“面”の現代方言分布表】 【表11】

方言区域		方言点(都市)	語彙			
官話方言		北京	臉	开水	穿(衣服)	
		濟南(山東省)	ㄥ	ㄥ	ㄥ	
		西安(陝西省)	ㄥ	ㄥ	ㄥ	
		太原(山西省)	ㄥ	ㄥ	ㄥ	
		武漢(湖北省)	ㄥ	ㄥ	ㄥ	
		成都(四川省)	ㄥ	ㄥ	ㄥ	
		合肥(安徽省)	ㄥ	ㄥ	ㄥ	
		揚州(江蘇省)	ㄥ	ㄥ	ㄥ	
吳語	北区	蘇州(江蘇省)	面孔	ㄥ	着	
	南区	温州(浙江省)	面	茶汤	着	
湘語		長沙(浙江省)	臉	开水	穿	
		双峰(湖南省)	面	ㄥ	穿	
贛語		南昌(江西省)	臉	ㄥ	穿	
客家話		梅県(広東省)	面	滾水	着	
粵語	粵中	広州(広東省)	ㄥ	ㄥ	着	
	粵南	陽江(広東省)	ㄥ	ㄥ	着	
閩語		閩南	廈門(福建省)	ㄥ	ㄥ	
			潮州(広東省)	ㄥ	ㄥ	
		閩東	福州(福建省)	ㄥ	滾湯; 开水	ㄥ
		閩北	建甌(福建省)	ㄥ	滾湯; 开水	ㄥ

### 【縦糸と横糸】

現代方言における「地理的分布」という横糸では、北方官話の“臉”、“开水”、“穿”が同一の分布を示す。他方、揚子江をはさんだ南方(諸方言)の“面”、“滾水”、“滾湯”、“着”が対象を成すかの如く、整然と分かれて分布している(但し、湘語と贛語は北方語寄りを示す)。

では、「時代的変遷」という縦糸ではどうなるか。

“臉”はもと「頰」を意味し、唐代ではまだ「顔」を指さなかった。“面”が「顔」を表した。一方、“顔”はもと「額」を示した。古代の意義が現代へと変遷して行く表【表12】を次に示す。

【表12】

“臉”	「頰」→意味拡大し、現代共通語では「顔」を表す
“顔”	「額」→意味拡大し、『史記』の時代、「顔」を表す
“面”	「顔」を示すが、宋あたりから“臉”へ徐々に移行
宋～清代: 「顔」を示す語は“面”から“臉”へ移行	

現代普通話では“顔”及び“面”は書面語として継承するのみ。口語では一般に使用しない。但し、【表11】のように南方諸方言では現代口語においても“面”を使用することが分かる。

このように、語彙の変遷を約1000年ぐらいの時代の流れの中で捉える通時論の方法（縦糸）と語彙分布を地理的区分（横糸）で線引きする共時論の方法を用い、複合的に検討する。その場合、近世中国語を始点として行う。

では、近世中国語とは一体何か。

中国語の歴史を時代区分すると、大きく次の3つに分けられる。古代中国語、近世中国語、現代中国語。ただし、これは、中国側研究者の分け方で、日本では一般に次の4つに分ける。即ち、古代中国語、中世中国語、近世中国語、現代中国語である。

近世中国語は、概ね宋代（960年～）から始まり、元、明、清、そして五四運動（1919年）あたりまでの約1000年の言語を指す（【表4】参照）。

### 2.1. なぜ、近世中国語を研究するのか

現代中国語の学習、研究になぜ近世中国語を繙かねばならないのか。

#### 【直接の祖先】

現代中国語だけでは解決できないことが多く存在するからである。言語は生き物で、現代中国語の文法、語彙が急に出来上がった訳ではない。古代中国語から中世、近世を経て現代中国語へと流れている中で、現代中国語（口語及び知的な文の所謂書面語）の原型、つまり、直接の祖先が近世中国語に存在しているからである。

近世中国語は、単に「未開拓領域が多い」、「多くの人が見向かない」等の理由で我々が行うのではない。文言の古代中国語との間には大きく深い溝が横たわるが、近世中国語は「口語」という点において現代中国語と密接につながる、いわば親戚の如き関係だからである。それゆえ、近世中国語は重視されなければならない。今後は中国においても近世中国語研究が更に盛況になるであろうと思われる。

### 2.2. なぜ、宋代からなのか

近世中国語はなぜ宋代からなのか。

言語の時代区分は明確には分けられない。ただ、様々な観点から見て、近世中国語が始まるのは宋代だと見なすのが妥当である。この最大の理由は「口語資料の急増」である。

#### 【口語資料の急増】

近世中国語の始点を宋代に置く最大の理由は、現代語の直接の祖先である旧白話の資料が一気に増えた点である。例えば、『武王伐紂』等の軍記物が多い宋代の話本。そして、寄席、演芸場などで講釈師が大衆相手にしゃべる、或いは雑劇を披露するという、所謂、町民文化が発達したのである。これは、経済的に庶民が豊かになったことの現れである。狂言は宋代に雑劇と呼称されていたが、元代に歌劇に整理され、元曲となる。これが、現代でも行われている「京劇」の基となる。

明代に入って『水滸』『金瓶梅』『西遊記』『拍案驚奇』等の白話小説が洪水の如く出現して来た。こうなると、当時の口語、庶民の話し言葉をふんだんに使用していて、資料としては恰好のものであ

る。

旧白話小説も源流は講釈師の言葉を速記するという形態をとっていた。例えば『水滸』をはじめ、どの旧白話小説にも「さて、みなさん、お聞き下さい」、「さて、この続きはどうなりますことやら。次回をお聞き下さい」等と講釈師の口吻がとどめられている。

### 2.3. なぜ『水滸傳』、『醒世姻縁傳』なのか

近世中国語の白話文（口語文）を旧白話と称し、現代中国語の白話と区別する。白話には対極に文言が対峙する。

#### 【文言文と白話（＝口語）文との差】

文言文は、型通りの文型、語彙を用い、先秦時代から何千年と進展、変化が無い。歴史の史実『三国志』を膨らませ、小説の形にした『三国志演義』は基本的に文言小説の体裁を採りつつ、やや白話へ傾きかけているにすぎず、一般には白話（口語）の研究資料としない。

現代中国語の直接の祖先は近世白話文（近世中国語の旧白話資料）になければならない。その恰好の資料は『水滸』に求めるのが妥当である。『水滸』は、長編で様々な階層の人々が登場し、当時の口語を反映した語彙が非常に豊富だからである。

このように、直接の祖先を特定の資料に設定し、上限を定める。そこから現代までの通時論を行うのが良い方法論だといえる。

更に、『醒世姻縁傳』は清代初期の北方中国語を反映した貴重な資料である。“給”、“很”（狠）の使用など、明代とは異なった様相を呈し、明代中期『金瓶梅詞話』から清代中期『紅樓夢』への過渡期的役割を果たすものと考えられる。

【表13】

	明代	清代初期	清代中期	清代後期
北方	『金瓶梅詞話』 →	『醒世姻縁傳』 →	『紅樓夢』 →	『兒女英雄傳』
南方	『水滸』 →	『初刻拍案驚奇』 →	『儒林外史』 →	『官場現形記』、 『二十年目睹之怪現狀』
純然たる方言語（蘇州語）：『海上花列傳』、『九尾龜』				

明代に入り、白話小説が多く出たが、同じ官話区域内の資料と雖も、北方語系と南方語系とが対立して存在するのは要注意点である。これは、歴史的変遷のみならず、語彙、語法の地理的分布も分析することができるし、また、しなければならない。

#### 【注】

- 1) 普通話 は拼音字母表記で、呉語などの方言は国際音標文字で表す。以下同じ。
- 2) これは、古代中国語、中世中国語の語彙を借用したさい、次で述べる「詰まる音＝音便」と同様、濁音をも輸入したからである。
- 3) 現代日本語にはまだ残存している。
- 4) しかし、実際には小学校1年～2年時にピンイン字母が重視されるにすぎない。これ以降は漢字表記に重点が置かれた教育となる。
- 5) そして、当時のままで残留している日本語にも存在する。
- 6) 但し、書き言葉としては現在でも中国共産党機関誌、中国共産党政治雑誌などで使用。政治用語とも言える。

- 7) しかし、21世紀に突入し、IT産業が盛んになった現代では意識の要素が無い「単なる音訳」、または「英語のアルファベット」での表現が比較的多く見られるようになった。例えば“伊妹儿”(E-mail)、“CD”(コンパクトディスク)など。現代中国人、とりわけ若者の間では「単なる音訳」または「英語そのまま」の方が洒落た感覚を抱くようなのである。

### [参考文献]

- 陈章太、李行健 1996,『普通话基础方言基本词汇集』(全5卷),语文出版社。
- 吳昌恒等 1989,『古今漢語实用詞典』,四川人民出版社。
- 北京大学中国語言文学系語言学教研室 1964,『漢語方言詞匯』,語文出版社(第2版1995年版)。
- 王力 1950,『中国語文講話』,北京・開明書店。
- 香坂順一1995,『〈水滸〉語彙と現代語』,光生館。
- 1983,『中国語の単語のはなし—語彙の世界』,光生館。
- 1971,『中国語学の基礎知識』,光生館。
- 植田均 1996a,『『現代漢語詞典』中の〈口〉語彙の認定』,『産業と経済』10.5号(奈良産業大学経済学会)。
- 1996b,『『現代漢語詞典』中の〈書〉語彙の認定』,『奈良産業大学紀要』12集。
- 1997,『『現代漢語詞典』中の〈方〉語彙の認定』,『奈良産業大学紀要』13集。
- 2002a,『『醒世姻縁傳』の語彙と現代方言—北方方言に継承される語』,『産業と経済』17.5号(奈良産業大学経済経営学会)。
- 2002b,『常用語義の変遷』,『産業と経済』17.5号(奈良産業大学経済経営学会)。
- 中国社会科学院語言研究所詞典編纂室 1979,『現代汉语词典』,商务印书馆(第3版1996年版)。
- 董紹克、張家芝 1997,『山東方言詞典』(語文出版社)
- 齋藤喜代治 1988,『漢字講座3 漢字と日本語』,明治書院。
- 藤堂明保 1969,『漢語と日本語』,秀英出版。
- 、相原茂 1985,『新訂中国語概論』,大修館書店。
- 中沢希男 1978,『漢字・漢語概説』,教育出版。
- 本社編 1991,『中国の古典名著・総解説』(改訂版),自由國民社。
- 韓邦慶,『海上花列傳』(古本小説集成),上海古籍出版社,1994年刊。
- 笑笑生,『金瓶梅詞話』(古本小説集成),上海古籍出版社,1994年刊。
- 西周生,『醒世姻縁傳』(古本小説集成),上海古籍出版社,1994年刊。
- 吳敬梓,『儒林外史』(古本小説集成),上海古籍出版社,1994年刊。
- 曹雪芹,『紅樓夢(戚序本)』(古本小説集成),上海古籍出版社,1994年刊。
- 文康,『兒女英雄傳』(古本小説集成),上海古籍出版社,1994年刊。
- 施耐庵,『水滸傳』(古本小説集成),上海古籍出版社,1994年刊。

\*本稿の骨子は、「平成16年度 教員のための公開講座」(於:奈良産業大学1号館,2004年8月2日。奈良県教育委員会・大阪府教育委員会後援)において「中国語を通して国際人を育てる」と題し、講演したものである。